

平成31年 2月

網崎正孝 学位論文審査要旨

主 査 久 郷 裕 之

副主査 藤 原 義 之

同 汐 田 剛 史

主論文

Identification of genes involved in the regulation of telomerase reverse transcriptase in hepatocellular carcinoma

(肝細胞癌におけるテロメラーゼ逆転写酵素の制御に関与する遺伝子の同定)

(著者：網崎正孝、土谷博之、坂部友彦、藤原義之、汐田剛史)

平成31年 Cancer Science 掲載予定

参考論文

1. Comparison of single-stapling and hemi-double-stapling methods for intracorporeal esophagojejunostomy using a circular stapler after totally laparoscopic total gastrectomy

(腹腔鏡下胃全摘術後のサーキュラーステープラーを用いた体腔内食道空腸吻合術におけるシングルステーブル法とヘミダブルステーブル法の比較)

(著者：網崎正孝、木原恭一、遠藤財範、鈴木和則、中村誠一、澤田隆、清水哲)

平成28年 Surgical Endoscopy 30巻 2994頁～3000頁

2. Prognostic value of postoperative complication for early recurrence after curative resection of hepatocellular carcinoma

(肝細胞癌摘出治療後の早期再発における術後合併症の予後的価値)

(著者：網崎正孝、齊藤博昭、徳安成郎、坂本照尚、本城総一郎、藤原義之)

平成30年 Hepatobiliary & Pancreatic Diseases International 17巻
323頁～329頁

審査結果の要旨

本研究は、肝細胞癌（HCC）細胞株においてヒトテロメラーゼ逆転写酵素（TERT）の制御因子を新たに同定し、C15orf55およびC7orf43がそれぞれSP1、YAP1を介してTERTの発現を増加させることを明らかにした。さらに、HCC患者の肝組織においてこれらの遺伝子が過剰に発現しており、これらの遺伝子のうちいずれかが高発現している患者の予後が不良であることを見出した。本研究は、HCC治療において新たな治療標的となりうる遺伝子を同定し、明らかに学術水準を高めたものと認める。